

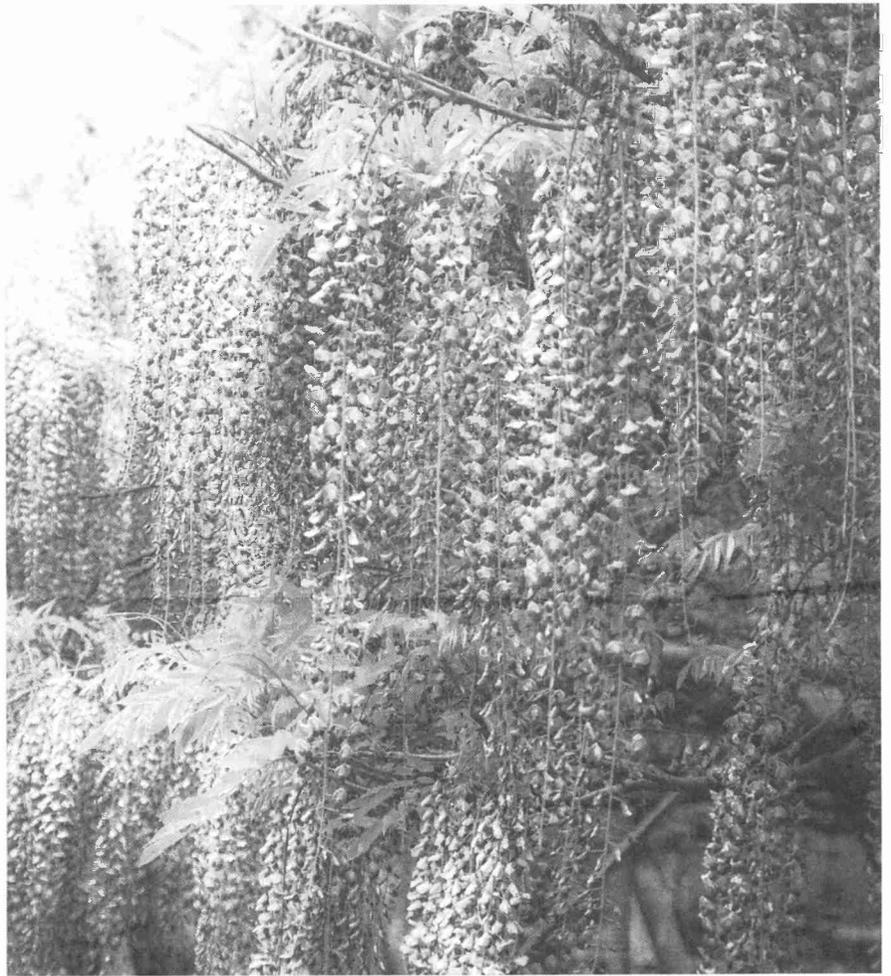
ぜん ぎょう じ
善巧寺報

5 月号

月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚

● 藤 ●
わがやどに 咲ける藤波 たちかへり すぎがてにのみ 人の見るらん
凡河内みつね「古今和歌集」・藤の花が満開を迎えそこに風が吹くと、あたかも
ねる波のように見えることから、古人は「藤波」と表現しました。波が「立つ」、
通り過ぎようとした人が、見事な藤の花が目に入り「たち」かえる、掛詞になっ
ているのですね。そして、素通りできずに見入ってしまう。藤のほのかな香り、
暖かな風、心奪われ見上げるさま、情景が浮かんできますね。感じることに、学ぶ
こと、味わうこと、この世界には満ち溢れています。



季節の花

～ 藤 ～

▼二〇二〇年五月一日▲

定例法座

毎月
十一日

◎五月十一日(月)

午後二時～二時半

於 野外 報恩堂(納骨堂)前

(雨天時・法輪会館)

「不安であたりまえ」

四月七日に出された「緊急事態宣言」により、今回も定例法座は基本的に中止いたします。それでもご聴聞したいという方は、感染リスクを充分にご勘案の上、十日までにお寺に電話連絡下さい。

英語には、「安全」という単語はあっても「安心」という言葉にピッタリ当てはまる単語は無いと言います。私たちは「安全」と「安心」を同義語のように考

えがちですが、実は「安全」「安心」は全く異なる言葉であると考えた方がよいかもしれません。

何故なら、「安全」は危険を察知する注意力、それを避けようとする行動力が伴わなければ実現しないからです。もし、危険な状態にありながらも勝手に「安心」をして満足してしまうなら、それは最早「安全」を放棄している事になってしまいます。

お釈迦様は、お弟子方に対し「心の動きやそれに伴う行動に常に気をつけておれ」と口癖のように事あるごとにお説教されています。親鸞聖人は、手前勝手に作り上げた「安心」ほど、壊れやすく危険なものはない。壊れる事が無い「仏さまの安心」

の中に生かされて行きましよう、とお勧め下さいました。

あなたがどのような状態・立場にあってもあなたを絶対に捨てはしない、という阿弥陀仏の心を聞かせて頂くと、いかに自分が自身の欲望を基準に、毎日毎日苦しみ悩み貪り怒りと言った心に振り回され惑わされてきたのかとハツとさせられます。

そんな時はお仏壇に手を合わせ、「ああ恥ずかしや、今日も自分の損得心に振り回されて。嗚呼ありがたや、この煩惱に染まる私を捨てぬという仏がおったとは」と報恩のお念仏を申したものです。



例年五月に修行させて頂いている「善巧寺門信徒総永代経法要」ですが、本年はこのような緊急事態でありますので参拝中止といたします。法要は住職一人でお勤めさせて頂きます。どうか三密を避け、出来る限り感染拡大のペースを緩めることに皆で協力し合いました。

尚、法要の様子は、Youtube 住職ちゃんねるにて、配信いたしますので、ご自宅にてご覧ください。

配信日時

五月二十四日(日)

午前十一時〜

引き続き 法話

「仏力を仰ぐ」

善巧寺住職 榎本 明覚

URL

https://www.youtube.com/watch?v=4AhrxpQh_my



三密のおさらい

① 換気の悪い密閉空間

② 多数の集まる密集場所

③ 間近で会話発声する密接場面

右三点を避けるよう、できる限り気をつけて生活習慣を変えていきましょう。
 (例)スーパーやお店に毎日のように行かないで、回数を減らす(週二回にするなど)。他人とは二メートル(両手を広げて当たらない距離)を保つようにする。おしゃべり立ち話は極力やめて挨拶程度に。メールや電話、テレビ電話などを用いる。窓を開けて常に換気を心掛ける。外出時はマスク着用。帰宅後はすぐ手洗い、ドアノブなどよく触る場所を消毒(次亜塩素酸水(ブリーチ)を用いる際は使用上の注意を厳守)する。など、気晴らしのお散歩も人のいない方へいの方へと(笑)(いやいや新たな発見があるかもしれませんよ!) いろいろと考えて工夫していきましょう。